グループホーム喜成会

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフからのボトムアップで作成した理念であり、誰にでもわかりやすく簡潔に方言をおりまぜ掲げている。「つれもて」の中には入居者スタッフ、家族そして地域の方々とつながりをもって暮らしていこうという想いが込められている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をフロアー内の誰もが目に付く場所に掲示、常に意識出来るようにしている。また、定期的な会議等においても理念の考え方を基にいま、どのような支援を提供していくことが必要か話し合う場面をつくっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方々にはご理解は頂いているが、地域についてはまだまだ足りない事がある。しかし、認知症サポーター養成講座を実施したり運営推進会議を活用し、自治会の回覧板に機関紙を掲載してもらうなどの工夫を現在行なっている。	○	地域の中での介護教室を法人の在宅介護支援センターと協働で行い、地域に働きかけていく。（昨年末より4ヶ所の地域で認知症サポータ講座を開催）
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な散歩や買い物等を通じて、近隣の方々と挨拶を交わしたりは行なっているが前回同様難しい状況は変わっていない。前回の評価で取組としていきたいグループホーム独自の広報活動やイベントはまだ実施出来ていない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加および法人として行なっている盆踊りといった大きな行事の中で交流には努めている。その中で、入居者が交流する機会もあるが、日常的なものにはなっていない。	○	法人として地域活動も実施しているが、グループホームということのアピールも今後、地域の中での啓発活動を通じて展開していきたい。

グループホーム喜成会

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の介護教室の中でサポーター養成講座を開き、認知症の理解に努めている。また、地域以外においても認知症に関する研修会等を開催し、認知症の啓発やケアの質向上にも努力している。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、スタッフがともに話し合い、課題を明確にしながら改善していける点について工夫を行なっている。地域交流や家族ニーズについてはまだまだ検討等を重ねていくことは必要である。	○	改善していく必要があることがまだまだ実行出来ていないことがあるので、少しでも取り組みとして具体的に進めていくようスタッフ間で話し合う機会を増やしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において現状報告や入居者の状態変化によるケアの課題等を提示し意見を頂いている。また、より活動状況を理解してもらうためにロ頭だけでなくスライドショウを活用するなどグループホームの暮らしぶりを理解していただくよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との連携は現在も特に変わりなく、連携がとれていないが運営推進会議には行政の立場として市の支所の所長が出席して頂いている。県の長寿社会課とは認知症関連の各種事業において連携をとっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度より法人内の職員研修体系を見直し、権利擁護に関する項目も取り入れ実施している。また認知症介護実践者研修に参加し、その内容に関してスタッフ間で共有する機会を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	上記同様、法人内研修の強化を行なっている。認知症に特化した事業所として、自分たちの日頃のケアを振り返ることなど常に意識をもって関われるよう努めている。		

グループホーム喜成会

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居後予測されることも含め（リスク・心身の低下・退去要件等）当事業所が取り組んでいるケアの内容を理解していただくよう説明し納得のいく契約締結に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なかなか入居者が意思を伝えることが出来にくくなってはいるが、個々の言動からその想いを汲み取り反映できるよう努力はしているがそれがマッチしてるかスタッフ個々に不安がある。	○	今後、運営推進会議等において実際の入居者の声も伝えられるような機会を考えていきたい。（入居者の代弁者として）
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に日頃の様子や健康状態を報告している。また昨年より文書とビジュアルによる暮らしぶりを伝える取組を実施している。金銭をお預かりしている方については出納帳・領収書により説明し、それについての同意のサインを頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設置し、年2回運営に関する報告等を行なう機会を設けている。前回、家族だけの話し合う場面づくりにはまだ至っていない。	○	ご家族の生の声が聞かせて頂ける場面づくりを家族会の皆さんと話し合っていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談などスタッフの声を聞く機会を設けてはいるが、スタッフ個々によって充足感は違いがある。小規模ゆえになかなか難しいこともある（スタッフ人員にゆとりがない等）		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在はスタッフは固定化しており、管理者を含め利用者、家族等に柔軟な対応が出来ている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	上記のように、現状スタッフは安定しており馴染みの関係づくりが形成されている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修についてはスタッフの意欲を尊重し、行きたい研修には参加出来るよう努めている。また昨年度より法人内職場研修を強化し、職員のスキルアップ出来るよう取り組んでいる。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡会の研修に参加し、他事業所との情報交換を行なっている。また、相互実習も行い、同事業所間での気づきを得られるよう努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スーパーバイザーの配置は今年度より実施しているが、管理者が兼務しているので事業所としてストレス軽減に反映はされていない。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上記のように十分な対応が出来ておらず、小規模故の細かなストレスがあり、向上心をもって働ける環境とは言いがたいが、今回の介護報酬改正をうけて、資格手当および夜勤手当のアップを行なう予定にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の状態把握には事前に本人家族と面談し、今までの生活習慣等を含め、アセスメントすることでサービス提供に反映出来るよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決めるまでのご家族の介護での苦悩等を理解し、本人を含めたご家族の自立を重点とし、距離を置いた上での新たな関係性が構築出来るよう話し合いをしている。		

グループホーム喜成会

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人の状態や家族の状況等を確認しながら、現状出来る支援の方法や今後、必要な支援を考えながら、両者にとって良い方法を一緒に考えるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に体験利用をしていただき、本人や家族が安心して利用出来るよう配慮ををするように努めている。また、管理者が訪問するなど工夫を行なっているが環境変化に対して本人の不安を解消するにはまだまだ不十分な点もある。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当事業所理念はこの点において力を入れており、個々の認知機能の違いがある中でも、入居者間の人間関係を大切に、感情を受け止めスタッフと共に、寄り添っていけるよう日々のケアに努めている。そのためにスタッフ間で共有出来るよう会議等を実施している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の暮らしぶりを伝え、また文章においても昨年より実施している。必要に応じては家族支援も受けながら、共に支援していけるよう働きかけを行なっている。定期的に実施している家族会においても参加型の催しを行なうなど工夫している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上記同様、情報共有に努めながら、外出や外泊支援をご家族の状況に応じ支援している。それによって本人とご家族のよりよい関係づくりに事業所として可能な限りの協力をしている。また、家族会においても家族単位の時間を設定するなど会自体にも工夫している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用していた理美容院の利用やよく出掛けた場所（寺）など全員の入居者には至ってないが、関係継続には努めている。Hしかし、徐々に出来にくくなっているので、本人の思い等を汲み取り支援に繋げていく事が必要である。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	事業所理念から入居者の関係づくりを大切にしている。相性など人間関係を形成していく上で難しいこともあるが、共同生活という意味合いを理解を深めながら、助け合いや思いやる心を持てるような環境づくりをしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了が現実的に医療機関への長期入院で亡くなるケースが多いため、入院中の見舞いや医療機関への情報提供程度に留まっている。	○	先日、以前の入居者のご家族とお会いすることがあり、その方の経営されているカラオケに皆さんとお越しくださいと声を掛けていただいたので、これを機会に関係継続のきっかけにしていきたいと考えている。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わり等から個々の思いを汲み取り支援に反映出来るよう努めている。また、センター方式のアセスメントツールを活用し、Ｃ－１－２のシートを各スタッフが記入することで情報の共有を行なっている。しかし、実際にそれを汲み取れているのかスタッフの中には、迷い等があるのも事実である。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用しこれまでの暮らしや慣習を把握するように努め、またご家族等との対話の中から新たな情報を収集し、状況に応じて活用出来るように心掛けている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式の「できること・できないこと」「わかること・わからないこと」シートを活用し、個々のチカラを引き出し、また出来にくくなっていることに対してどのように支援していくかを検討している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の言葉や想いを汲み取り介護計画に盛り込み安心して生活出来るように状況や必要性に応じて計画作成をしているが、家族の意向の反映に関しては不十分な点がある。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状態変化等によって計画の見直しが必要と判断すれば行なっているが、暫定的に作成されるのでスタッフ間の共有や家族の意向が反映されないこともある。	○	計画作成者だけに頼るのではなく、スタッフ全員が日々の関わりから計画の評価を行なっていけるよう、現場でのモニタリングを行なう機会を設けていく。

グループホーム喜成会

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の暮らしぶりがわかるよう時系列で記入するようにしている。その中から個々への気づきが出来るようにしているが、入居者の状態像によって記載に差異が見られる。	○	行動の少ない方についても、日常の表情の変化など細かい部分での記載を意識的におこないよう心掛けるようスタッフ会議で検討している。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人およびご家族の状況（例えば：移動手段がない、病院への付き添いが出来ない等）によって送迎や付き添いを行なうなど、可能な限り柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じて民生委員の方の協力で畑作りに加え、地域自治会での回覧板に機関紙を織り込んで頂き、事業所も班の中に属し回覧を利用者とともに行なっている。まだそれ以外の地域資源との協働には至っていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在活用しているサービスは、市が行なっているオムツの給付サービスを包括支援センターに依頼し活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて関わりをもって、地域の認知症理解等の議題に挙げ検討している。	○	今後、地域包括支援センターと連携出来る点を検討しながら、他事業所を含めたネットワーク作りを心掛けていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望に沿うよう医療機関は選択出来るようにしている。また、協力医療機関による外来や往診を必要に応じて受けられるように配慮している。		

グループホーム喜成会

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に来られる医大の脳神経外科のドクターに相談や診察を受けられるようになっているが、常時出来ず、またケアに関する相談までには至らない。	○	現在、BPSD等ケアにおいて課題を抱えていないが、今後ドクターへの相談や診察が必要なケースには近隣の認知症サポーター医と連携していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の配置および訪問看護ステーションとの契約もしていないので基本的に日常の中での変化をスタッフが気づき、外来や往診時に看護師と関わるだけである。	○	今後、医療ニーズや現場スタッフの不安を少しでも解消していくために看護職員の配置は現状難しいため、併設事業所の看護職員との連携を検討していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には状況に応じて入院によるダメージを最小限にするようドクターや病棟看護師に情報提供を行ない、本人の日頃の状態を理解してもらうよう努めている。また、家族との連携によりご家族の希望も話し合いを行い、医療機関に伝え、早期の退院できるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に重度化や終末期に触れて話はするが、意思の確認書等をとるといった取り組みはまだ出来ていない。現状では個々の状態に応じてドクターやご家族と随時話し合いを行い、現場の介護力も含め検討していく方針である。	○	ご家族のニーズ等は変化はしていくが、入居時に文書等で意思の確認をとるようにしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に関してこの自己評価をスタッフ間で実施したことで意見交換することが出来た。医療体制やご家族との連携も含め事業所として可能な限り対応はしていくことでチームとして考え方は一致した。	○	実際に取り組んでいくためには整備しなくてはならない事が多くあり、また現場サイドとしても個々のスキルアップが必要で研修等に参加することでより意識を高めていくようにしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	過去のケースでは併設の支援ハウスへの住み替えで情報の伝達や関わりはある程度継続できていたが、今後、他の介護保険施設を含め住み替えに関しては詳細な情報伝達や関係性の継続によりダメージの軽減に努めていきたい。		

グループホーム喜成会

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	身体拘束の研修に参加し、言葉遣いに関して日頃の何気ない言葉が入居者にとって個々の誇りを傷つけたりしていないか振り返る機会をスタッフ間で話し合いを行い、常々意識をしながら関わっていくようにしている。	○	常に意識していくことが必要と考えられる事なので、今後も折を見てはスタッフ間で話し合いをもつようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々のわかることや出来る事に応じて支援を行なっている。希望に沿った外出や生活場面において自己で選択出来る場面をつくっているが、意思表示が困難な方もおられる為、スタッフ主体になっていないかと現場では自問自答していることがある。	○	個々のチカラをしっかりスタッフ間で見極めながら、共有していく事でスタッフ間の迷いを少しでも軽減していく事が必要である。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは昨年の状態からは安定しており、入居者の生活ペースに合わせた支援が出来るようにはなっている。しかし、スタッフの人員によっては生活の幅が決まってしまったりすることもある。	○	少ない人員でも出来る事を見い出すことや入居者の状態に囚われず暮らしのメリハリがつくよう支援していくことを考えていきたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理美容院を利用し関係性を継続するように支援を行なっている。身だしなみも整髪や衣服等細かい配慮を行なうよう努めてはいるが、スタッフサイドで選んでしまっていたり、手を出している事もある。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできること･できないことを把握しながら、食事の準備（調理や配膳、盛り付け等）や片付けなど個々のその日、その時の状態を見極めながら取り組んでいる。また、食卓を囲みスタッフと入居者が食事を楽しむ雰囲気づくりを大切にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	水分摂取に関してもお茶だけではなく、その日その日で工夫したり、本人の好みに配慮するよう心掛けている。また、本人の好む果物をご家族が持参していただいており、ご本人の体調等に応じて食べていただくよう支援している。	○	健康管理の面で食事摂取量や体重の増減等に注意しながら本人の嗜好を支援していきたい。

グループホーム喜成会

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、自力でのトイレでの排泄が出来るよう支援している。また、排泄介助の前後の情報をしっかり把握し、柔軟に時間に囚われず、予測しながら排泄支援が出来るようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回の評価ではスタッフサイドで決めていたことも少なからずあったが、現在は限られた人員でも日々の中で次官を調整し毎日入浴出来る体制をとっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体力や状態に応じて居室で休んでいただく時間を設けたり、日々の活動（外出支援等）から夜間の安眠につながるよう支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の状態の違いから十分な支援が提供出来ていないこともある。出来る方には積極的に役割や楽しみごとが見い出せるよう支援してはいるが、その他の方への場面づくりに工夫が必要である。	○	できることばかりにこだわるのではなく、個々の生活歴などにもっと注目し、本人が培ってきた知恵や経験が発揮出来る場面づくりを考えていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの買い物では支払いを行なっていただく場面をつくり、見守りながら支援を行なっている。現在は個人でお金を管理されている方は1名だけであるが置き忘れ等などあったりするが、安易に預からず本人の管理を支援できるようスタッフが配慮している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に事業所裏の畑やゴミ捨て、散歩といった外出や外食やドライブ等の支援も行なっている。しかし、日常的な外出ではスタッフの数によっては入居者に偏りがみられる。	○	移動にスタッフの数が必要なこともあるが、日常的な外出機会を介護量を必要とする方にも増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昔から習慣にされていた御大師さまの日のお参りを数名の入居者と行なうといったことは実施している。また、ご家族と一緒に墓参りや馴染みの場所へ外出される機会もある。	○	今後も個々のバックグランドから行きたい場所を考え、単発的にでも実施していくように努めていきたい。

グループホーム喜成会

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については訴えやご家族のことを心配されているような素振りがあれば、いつでも出来るように支援している。また手紙を書くということは出来ていないが、直近の様子を写真と文章で担当者が作成しご家族や知人に送付することを昨年より実施している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ゆったりと過ごせる雰囲気づくりには常に心掛け、本人さんの居室以外でも共有スペースで他の入居者も含め、言葉掛けしていただくなどしておられるご家族もある。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県看護協会が主催した身体拘束の研修会に参加し、目に見える拘束だけでなく、日常的な関わりの中での言葉という点に重点をおいて個々のスタッフの振り返りを大切に無意識に行なっていることを意識化していくようにスタッフ間で話し合って取り組んでいる。	○	マンネリ化することで意識から離れてしまう事なので、ミーティング等で意識できるよう継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターおよび非常階段の扉は日中解除し、出入り出来るようにしている。また、外に行きたいような言動に対してスタッフが入居者の気分転換が出来るよう付き添い外に出られるように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者のおられる場所を把握し、危険がないか又、トラブルの発生する可能性はないかなど予見しながら行動するよう心掛けている。夜間についても個々の状態に合わせて安全確認するよう巡回に努めている。	○	フロアー内で目が届かないこともしばしばあり、またスタッフの意識の中で大丈夫だろうという安易な意識が事故等つながることもあるので、状況に応じて目配り気配りを行うことに努めていくことがこれからも重要である。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に応じて危険物の管理は検討している。包丁や洗剤等の保管場所は固定した場所に決めている。現在、異食などの行動障害がある方はおられないが、安易に物を置きっぱなしにすることがないよう気をつけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の心身状態の変化があり、転倒等のリスクファクターが増加している現状で、生活場面において大丈夫という判断を安易に行なわず「～かもしれない」と予見していくことに努めている。	○	個々の入居者のリスクに関して、スタッフミーティングを通じて共有していき、事故に対する意識を高くもつ中で日常生活を支援していくことに努めていく。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内にて緊急時の対応の研修(心肺蘇生法・緊急時の対応)を行い、また、外部研修においても同様の研修会に参加している。	○	今年度も継続して緊急時の対応として、消防署と連携して研修を定期的に実施する予定である。スタッフの緊急時の不安はなかなか拭えないが、こうした機会を設け、個々の出来ることを確認していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下、避難訓練や消火器の使い方等を実施し、又自主訓練も行っている。地域との連携に関しては、まだ話し合いが出来ておらず今後の課題である。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個々の入居者の状況に応じて、現状考えられる危険性についてご家族に日々のケアの中で安全面への配慮を行なっていることを説明している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の入居者の普段の状態をスタッフがしっかり把握することを基本として、日常の中で普段と違う言動や症状といったことに、気づき、ミーティングや管理者への報告、相談、関係機関への連絡へと繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方されている薬に関して、処方箋のコピーをファイルし薬に関する理解を行なっている。また、処方内容の変更があれば本人の状態観察を行い、随時状態報告を行ないドクターの指示を仰ぐようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の食材を多く摂取していただいたり、水分摂取（オリゴ糖の活用等）を根気よく行なうなどしている。また運動面に関しては屋外以外でもフロアーや館内を散策するといったことで補うように心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、本人の出来ることやわかることに応じて洗面所にて付き添いや介助にて口腔ケアを実施している。しかし、本人任せの方もあり毎回声掛けや確認が出来ていない点もある。	○	本人任せの方に関しても、本人のプライドに配慮しながら確認できるように努めていく必要がある。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はケア記録に記載し、個々の状態把握をトータルで検討し、支援するよう努めている。また、咽たりする方に対してはトロミや介助方法の工夫、食材を細かく刻むなどを行なうようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	日常的に消毒や清掃を重視し、法人内で作成したマニュアルで対応するようにしている。また、インフルエンザの予防接種も毎年、ご家族の同意を得て実施している。	○	衛生面については、つい忘れがちになるのでチェックシートを活用して確実性を高めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日常的に消毒や清掃を行なっているが、冷蔵庫内などまだまだ不備な点も見られる。	○	上記同様、衛生面に関してチェックシートを活用し定期的な管理を行なっていくよう努めていく。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	構造上5階ということで難しいこともあるが、玄関に関しては工夫を重ねてきている。下駄箱の設置や衝立の活用などこれからも固定化せず検討していきたい。彩光に関しては改善できていない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の入居者が落ち着ける空間づくりを意識的に設け、そのときどきで居場所を選べ、周囲の状況に応じて対処出来るようスペースを活用している。また、季節感や生活感を感じられるようフロアーのレイアウトを変えたり、身近な日用品を置くなど工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記同様、パブリックスペース以外に廊下の日当たりの良い場所に椅子やテーブルを配置したり、簡易の畳スペースを設置し作業しやすい空間づくりや個々の心身状態に応じてスペースの活用を行なっている。		

グループホーム喜成会

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室に関しては使い慣れた物を持ってきていただくなどしているが、入居者全般に共有スペースで過ごされる方が多いためか、共有スペースに比べるとやや配慮や工夫に欠ける点がある。	○	専有空間として、もっとスタッフ自身が工夫を凝らせるような意識付けを行なっていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、空調に関しては、個々のスタッフが入居者の立場でどうなのか？動いている自分たちと入居者との体感の違いを意識して調整するように心掛けるようにしている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干しの高さ調整や、食事の下ごしらえを行なうスペースなど身体機能に応じ対処している事もあるが、現状、ソファや椅子に関して、個々の入居者のチカラに応じた高さ等の配置が出来ていない事がある。	○	身体機能に応じた椅子の配置については早急に改善したいと考えている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の関わりから、何がわかって、何が出来にくくなっているのかを考えながら支援している。そのためにセンター方式のシートを活用し、スタッフ間で共有するように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	5階ということで難しい点はあるが、菜園づくりに取り組んだりしている。またベランダ内にプランターで花を育てるなどしているが、まだまだ活用する余地はある。	○	狭いスペースではあるが、数名が寄って時間を過ごせるなどのベランダ活用を検討していきたい。

グループホーム喜成会

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム喜成会

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

共同生活という観点から、認知度の違いはあっても互いに思いやりや優しさを表出出来るような環境づくりを目指して日々の支援に取り組んでいます。また、食卓を囲み、みんなが同じ場面を共有し、輪をもって和むような雰囲気を大切にしています。また、個々の身体機能の変化についても可能な限り本人の力を引き出しながら、そして、スタッフがケアの方法を工夫することで住みなれたこの場所で暮らしていけるよう支援しています。「ここにいてもいいなぁ」と感じて安心して過ごせるグループホームを目指して。